

3. 事業評価

3-1. 事業評価の観点と方法

3-1-1. 事業評価の観点

本事業は主に2つの観点で評価される。1つめの観点はプロセス評価であり、学習プログラムの開発、派遣/受け入れの時期や人数について目標値を達成できたか、また、事業の遂行過程や現場での運営が円滑であったかを評価するものである。2つめの観点は学習成果の評価であり、GRIPを通して育成を目指す「どの国、どの地域であっても、自国でも他の国でも健康関連の課題に他の専門職とともに取り組み、文化的対応能力及び文化的謙虚さを基盤として、現場での最適解を導き出すことができる自律した組織人」が含有する3つの能力：①連携実践能力、②問題解決能力、③Cultural Competence がプログラムを通してどの程度、またどのように発達したかを評価するものである。

3-1-2. プロセス評価の方法

プロセス評価と学習成果の評価は共に、定量的評価と定性的評価を併せて総合的に実施した。プロセス評価は、事業計画と実績の数値的な比較による定量的評価のほか、今年度の参加学生と演習にご協力いただいた各フィールドの担当者からのヒアリングに基づいて、次年度以降踏襲すべき点と改善すべき点を定性的に収集した。ヒアリングは全てのプログラム終了後にオンラインで担当者へ依頼し、任意でオンラインフォームを通して回答を得た。

3-1-3. 学習成果の評価方法

学習成果の評価のためには、GRIP参加前後に3つの能力を測定し統計的にその変化を検討する定量的評価と、参加学生のワークシートの記入内容（学習目標の立案、並びに、学習目標に照らし合わせたリフレクション）に基づく定量的評価を実施した。定量的評価の実施時期は、千葉大学およびシンビオシス国際大学の学生ともに、事前学習開始前（2月）と最終課題終了後（3月）である。回答は任意であり、Google FormsとBEVI[※]を使用してオンラインで回答依頼を送り、プログラム評価を目的とした測定であることや回答の有無や内容が成績に影響しないこと等の説明事項を読んだ上で「同意し回答を始める」を選択した学生のみが回答に進んだ（資料5）。定性的評価のため参照したワークシートは、学生が渡航を伴う現地演習の初日に学習目標を、最終日にリフレクションを記入したモノであった。以上のプログラム評価は千葉大学看護学研究科の倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号NR4-109）。学生に提示した説明事項や質問項目等、詳細は資料5の研究計画書の付帯資料を参照されたい。

※BEVI: The Beliefs, Events, and Values Inventoryの略称であり、ライセンスを得た大学のみ

が実施できる独自のオンラインプラットフォームを用いた信念や価値観の測定・分析ツール。

3-2. プロセス評価

3-2-1. 目標値の達成状況

「大学の国際展開力強化事業」の申請書に則り、2023年度の数値目標は提携校数2校、派遣学生数15名、受入学生数15名、派遣と受入の日数はそれぞれ10日程度であった。これらの目標に対する実績は、提携校数2校（シンビオシス国際大学、レスター大学）、派遣および受入学生数は10名ずつで計20名、それぞれが8日間の現地演習を含む10日程度の渡航日程でプログラム実施を完了し、数値目標を達成したと言える。

学習のプロセスとして重要である現地演習の事前事後学習をオンラインで行う計画についても、Zoomを用いて3カ国（日本、インド、イギリス）の学生が合同で集うオリエンテーションや、Google Classroomでのオンデマンド学習を通して機能的に実施できた。特にメタバース（oVice）を学習のプラットフォームとして利用した点には本学の他の留学プログラムにはない独自性が表れている。次年度以降は、事前学習におけるJV-Campusの更なる活用を目指している。

また、GRIPプログラムの特徴のひとつは学部や研究科等の専門性、並びに学部生から博士後期課程の学生まで学年を問わないインタープロフェッショナルなチームで課題に取り組む点である。今年度は、千葉大学では看護学部、看護学研究科（博士前期課程）、医学部、ならびに非医療系である国際教養学部、教育学部、工学部の学部生と大学院生が混在したチームを形成し、通常の授業では経験することがない編成でのプログラム参加が叶った。一方、シンビオシス国際大学からは、今年度は看護、デザイン、Arts and commerce専攻の学生が参加し、チームメンバーの多様性という点で昨年度よりもプログラムの趣旨に合致する編成となった。レスター大学は初年度である今年は医学系学部に絞り、医学専攻の学生と助産専攻の学生を受入れた。次年度は、数値目標（提携校数3校、派遣学生数20名、受入学生数20名）の達成を目指すと共に、学生の多様性を拡大し、よりプログラムの特徴を活かした学習経験を図る。

3-2-2. 協定校およびフィールドからの評価

シンビオシス国際大学、レスター大学、並びに、9のフィールドのうち3組織/施設の連絡担当者より、今年度のトライアル実施までの準備および当日の運営について、良かった点と改善すべき点のフィードバックを得た。得られた回答は以下の通りである。一部、組織/施設が特定されないよう表現を加工した。

良かった点